

## 「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴(令和2年(2020年)4月1日現在)

- ・ 圏域人口: 64,092人(2019年 64,099人)
- ・ 高齢者人口: 15,905人(2019年 15,791人)
- ・ 高齢化率: 24.82%(2019年 24.64%)

昨年度同様、圏域の人口に大きな変化はないが、高齢化率は増加している。特に北緑丘校区の高齢化率は、32.26%(圏域平均 24.82%)で、高齢者世帯 36.21%(平均 30.03%)である。東豊中校区とともにURの大きな集合住宅がある。エレベーターがあり、分譲住宅を含んでいる、住宅内、ほぼ平地である、内科、眼科、整形外科、店舗があることから、高齢、独居となっても、居住を継続する人が多い。高齢者のみならず、住民全体に介護予防の啓発を行うとともに、他者とつながること、人生会議の必要性等知らせる必要がある。

センターの取組方針や特徴

### 【センターの運営方針】

- ・ 三職種の配置人数を確保しているため、職種の特徴を活かし、業務分担ができています。
- ・ Zoomを職員全員が使うことができ、申し送りや会議、打ち合わせを職員が集まることなく随時行っている。
- ・ 全員で取組むことを基本とし、朝の相談内容の共有や定例会議で担当業務の進捗状況の報告、担当外業務へ互いに協力している。

### 【特に力を入れて活動している点】

#### <介護予防の啓発>

コロナ禍で通いの場づくりとしては、活動ができないため、zoomを使つての啓発、公園などでの啓発や、DVDを配布するなど、できる方法を考え、行った。

#### <情報収集>

民生委員定例会の参加、高齢部会の開催、福祉なんでも相談窓口への訪問が困難なため、定期的に電話にて情報収集を行った。診療所、薬局、コンビニなどへ出向き、包括の啓発と地域情報を収集した。

### 【活動の中での課題やその解決策】

#### <課題>

新型コロナウイルス感染拡大により、人が集まることができず、今までのような活動ができなくなった。高齢者の外出自粛、若い世代のテレワークや自宅待機などで、今まで起こらなかった問題が起こった。戸別訪問ができなくなった

こともあり、家の中の様子などの情報が得にくい。

＜解決策＞

電話、Zoom を活用した。診療所、薬局、コンビニなどをへ出向き、情報収集した。

【その他】

コロナ禍であり、活動の自粛など戸惑いが多かったが、それだけに職員間でよく会話し、知恵を出し合った。

総評

【特徴的な取組内容】

- ① コロナ禍で増加する「高齢者の\*フレイル」予防の取組みの推進に努めています。

\*フレイル

加齢とともに心身の機能が衰えた状態のこと。早めに気づいて対応することで、要介護状態になる可能性を下げることができます。

- ② インターネット環境を利用し、本センターと分室をつなぐことで一体的な運営が図られており、研修や啓発活動が効果的に実施されています。また、電話も本センターと分室で一体で受けることができるため、訪問等で人員が少なくなる場合でも、市民サービスの質を低下させない運営体制が確保されています。
- ③ 独自の「つぶやきシート」を活用し、地域での発見、気づき、変化等を記録し、職員間で共有することで、変化する課題やニーズに即した校区毎の次期計画を策定しています。
- ④ コロナ禍で集える場の確保が困難なため、これまで築いてきた地域関係機関等との顔の見える関係性が途切れないよう、積極的に医療機関や介護事業所を訪問し、関係性の継続に努めています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① 職員個々のスキル等をふまえた計画的な研修計画の立案が望まれます。
- ② 個人情報紛失時等の初動対応マニュアルの充実が望まれます。
- ③ 介護予防ケアプランを作成する際、利用者や家族の意向と計画目標の関係性をよりわかりやすくすることで利用者が目標を自分で評価しやすくなるとともに、次の計画作成の意欲の向上に資すると考えられ、\*自立支援型ケアマネジメンツの実施につながります。地域包括支援センターの職員のみならず、委託先のすべての居宅介護支援事業所の介護支援専門員が自立支援型ケアマネジメンツを実施できるよう、研修・勉強会等を通じた介護予防ケアプラン作成のさらなる質の向上が望まれます。

\*自立支援型ケアマネジメンツ

自立支援は、単に「できないことを代わりにやる」という意味での支援ではなく、可能

な限り自分でできることは自分で対応し、「できないことを可能な限りできるようにするため」の支援のことを言います。自立支援型ケアマネジメントは、自立支援の考えに即して、機能訓練、生活援助や地域参加などのサービスを組み合わせて実施されるケアマネジメントを意味します。

- ④ コロナ禍の中、新しい生活様式をふまえたさらなる取組みの工夫が望まれます。